

岸和田・本町地区の歴史と特徴

岸和田には、城下町の雰囲気とともに、当時の町割、遺構がよく留められています。特に、紀州街道の道筋には、その歴史を語る建築物などが数多く遺されている中で、江戸時代の中心街であった本町地区の、本瓦葺き、中二階、出格子の立面で構成されるまちなみは、城下町の商業の中心地としての地位にふさわしい重厚さを保っています。

まちづくり10年のあゆみ

本町地区では、紀州街道、そして岸和田城下町の風情あるまちなみを守り育てるために、国の街なみ環境整備事業などを活用して、平成6年度からまちづくりに取り組んできました。これまでの事業の主な成果は次のとおりです。

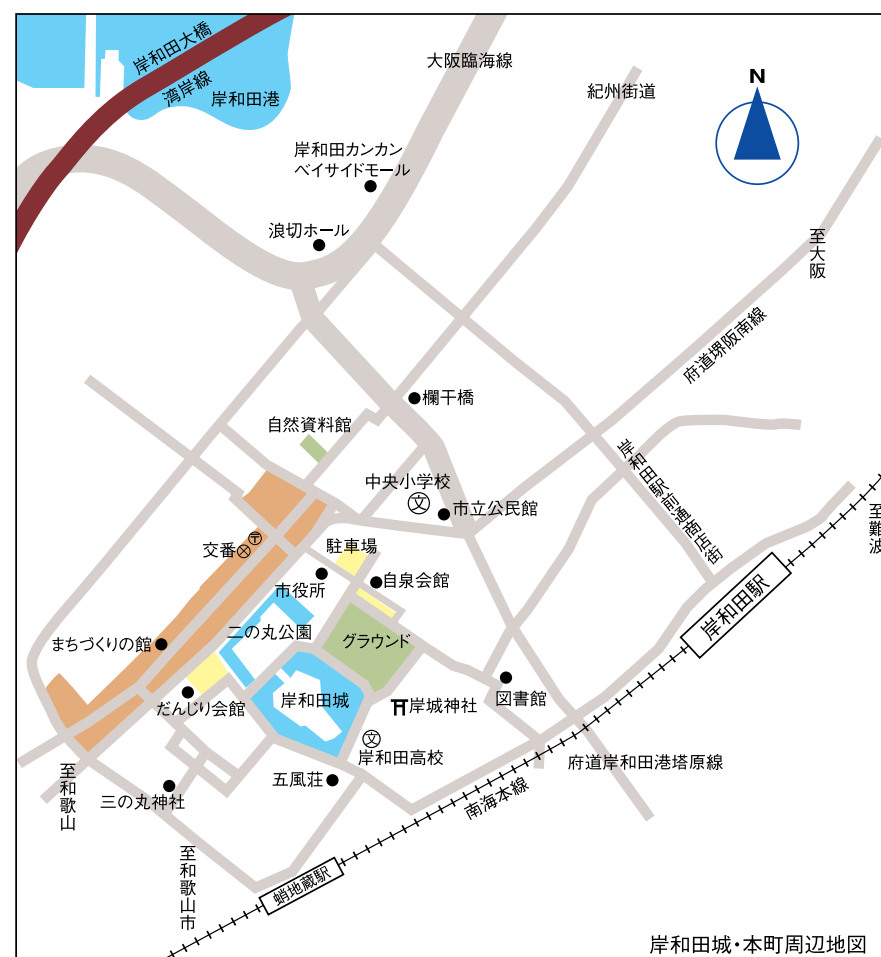
- 紀州街道修景 平成3～6年（歴史をめぐる遊歩道整備事業）
- ポケットパークの整備 平成7～8年
- まちづくりの館の整備 平成6～8年
- 町家修景18件 平成5～15年



修景前



修景後



本町地区がめざす将来像

私たちは、これまで歴史的まちなみを守り生かすまちづくりに取り組んできました。これからも、そのことは大切に続け、美しく落ち着いたまちなみに磨きをかけていきたいと考えています。

さらにまわりの城周辺や商店街とつながりを持って、訪れる人に感動を与え、若い世代も住み、子どもが健やかに育つような元気あるまちをめざし、まちぐるみでガーデニングやすまいづくりにも取り組んでいこうとしています。



まちづくりイメージ写真

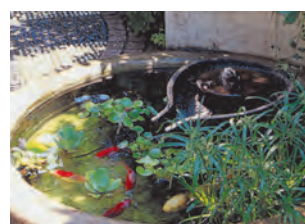


本町のまちづくりを考える会は

本町のまちづくりを考える会は、本町地区の歴史的まちなみの保全と魅力あるまちづくりをめざして、平成6年に発足しました。これまで、地域みんなが協力しながら、行政や専門家と連携して、まちなみ整備を推進するとともに、研修会や他地域の視察、他団体との交流、美化運動などの活動を重ねてきました。平成10年からはじまった手づくりのイベント「紀州街道にぎわい市」は、市内外から多くの人々が訪れています。



紀州街道にぎわい市



紀州街道夢灯路

本町のまちづくりを考える会

お問い合わせは
〒596-8510 岸和田市岸城7-1
岸和田市都市整備部都市計画課 TEL0724-23-2121（代）



岸和田・本町

Kishiwada Honmachi

紀州街道の歴史・・・
城下町の風情・・・
そして今、くらしが息づくまち



まちなみ

歴史をつなぎ、未来をひらくまちなみ・町家



本町地区の町家
城下町時代を支えた商家群が並ぶ通りであることから、本瓦のしころ葺きの屋根、むしこ窓をもつ中二階、一階には格子が連なる町家らしい外観が特徴で、歴史的景観建築物として指定されているものが33軒ある。



まちづくりの館
観光客の休憩所や地元の人たちの集会施設として活用。ガイドシステムによる市内観光やお茶の無料サービスが受けられる。平成9年9月開館。



元気庵・光輪庵
町家を活用してギャラリーや有機野菜の販売をしたり、講演会や演奏会を行うなど様々なイベントを行なっている。

自泉会館



袖うだつ



持ち送り



返魂丹(薬種商の看板)



圓成寺
16世紀の中頃信濃国の加藤主計が建立したと言われる。本堂は大阪でも数少ない江戸時代初期のもので、表門・鐘楼・太鼓楼・経蔵・宝蔵など江戸時代の建築がかたまって残る寺観の整った寺院。



光明寺
岸和田城北にあったが、16世紀中頃現在地に移転したと言われる。圓成寺同様、観音堂・鐘楼・表門など江戸時代の建築がよく残されている。



紀州街道の道標



一里塚弁財天
江戸日本橋を中心とし全国の主な街道沿いに一里（約3.9 km）ごとに設置された路呈標。旅人はここでしばしの休憩をとった。弁財天は萬治・寛文の頃からまつられるようになった。



旧五十一銀行跡
本町は藩の御用商人が多く、紀州街道沿いの商家や卸問屋が軒を連ねた。これらの発展とともに五十一銀行も成長していった。



だんじり小屋



駒つなぎ



.....本町地区の範囲
■歴史的景観建築物
●町家修景